

数学

大阪市立大学[文系] (前期)

<全体分析>

試験時間	90	分	解答問題数	4	題
------	----	---	-------	---	---

解答形式

全問記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴

すべて数学Ⅱ・数学Bからの出題である。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

2は理系にはほぼ同内容の問題がある。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	微分法	数学Ⅱ	3次関数の増減と極値の和	標準
2	複素数と方程式	数学Ⅱ	共役解 解と係数の関係	標準
3	漸化式	数学B	漸化式で定義される数列の値の範囲	難
4	図形と方程式	数学Ⅱ	2つの円が外接する条件 共通接線 三角形の面積	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

例年微分法の問題が出題されるが、今年度もその傾向は踏襲された。理系色の濃い**3**が難しく、比較的取り組みやすい**1**や**4**も計算量が多めであることを考えると決して易問とは言えず、全体として昨年度より難しい試験である。

まずは標準的な問題の演習を通して、様々な概念の本質を習得しよう。解法を「暗記」するのではなく、なぜそのような解き方をするのか深く納得しながら学習してほしい。それに加えて微積分やベクトルの内積計算で要求される単純な計算力の増強にも努めたい。